

倉橋 由美子(1935～2005) 小説家

高知県生まれ。土佐高等学校卒業後、明治大学文学部に入学。1960年、在学中に発表した短編小説『バルタイ』が明大新聞「第4回学長賞」を受賞。平野謙の文芸時評欄でとりあげられ、有望な新人作家として注目される。1961年に女流文学賞、1963年に田村俊子賞を受賞。1966年より米国のアイオワ州立大学に留学。帰国後、1969年に『スマキヤストQの冒険』を刊行し、話題となる。1983年『アマノン国往還記』（泉鏡花文学賞）、1984年『大人のための残酷童話』はロングセラーとなる。また、シェル・シルヴァスタイン『ぼくを探しに』、サン＝テグジュペリ『新訳星の王子さま』など翻訳も多く手がけた。現在も、国内外から高い評価を集めている。2006年、本学より特別功労賞を授与。

阿久 悠(1937～2007) 作詞家・作家

兵庫県淡路島生まれ。明治大学文学部卒業。広告代理店勤務を経て、放送作家・作詞家として活動を本格化させ、「また逢う日まで」「勝手にしやがれ」「UFO」など数々のヒット曲を発表する。手掛けた5000曲以上にも及ぶその歌の世界は、アイドルから演歌、POPS、アニメ主題歌と多岐に渡り、世代を超えて日本人の心を捉え続け、「日本レコード大賞」「日本歌謡大賞」「日本作詩大賞」「古賀政男記念音楽大賞」などの賞を多数受賞。企画、審査員として携わったテレビ番組「スター誕生」では、森昌子、桜田淳子、山口百恵、小泉今日子など、多数のトップスターを輩出した。また、小説家としても活躍し、『瀬戸内少年野球団』は直木賞候補作となり、映画化もされた。1997年、第45回菊池寛賞受賞。1999年、紫綬褒章受章。

旦 敬介 国際日本学部教授 作家・翻訳家

1959年生まれ。東京都出身。専門はラテンアメリカ文学、アフロ・ラテンアメリカ文化。学生時代にペルー、ボリビアを旅して、メキシコに留学。その後、ブラジルのバイアアでアフロ・ブラジル文化に遭遇したのが転機。願望に忠実に生きることに目覚め、翻訳と文筆をしながらスペイン、ケニア、ブラジルなどで暮らした。明治大学で教えるようになったのちもアフロ文化を追い続け、在外研究期間となった2012年と2013年は、大西洋の両岸に住んでバイアアと西アフリカの間のつながりの調査に過ごした。訳書にガルシア＝マルケス『愛その他の悪霊について』、ゴイティソーロ『戦いの後の光景』など。著書に『ようこそ、奴隷航路へ』、『逃亡篇』、『ライティング・マシーン』など。2014年、『旅立つ理由』で読売文学賞受賞。

小谷 真理 情報コミュニケーション学部兼任講師 SF&ファンタジー評論家

1958年生まれ。富山県出身。北里大学薬学部薬学科卒。日本SF作家クラブ会員。日本ペンクラブ女性作家委員会副委員長。SF&ファンタジー評論家、フェミニズム理論家。幼少期よりSFとファンタジーの世界を愛し、同人誌とファン活動に邁進、コスプレイヤーの元祖となった。今もSFファンのお祭りであるSF大会に国の内外を問わず頻繁に参加し、優れたコスプレイヤーには小谷杯を授与して顕彰。アメリカのウィスコンシン州マディソンで開催されるフェミニスト系SF大会WisConが運営する年間最優秀ジェンダーSF賞（ジェイスムズ・ティプトリー・ジュニア文学賞）に感銘を受け、2001年にその姉妹版センス・オブ・ジェンダー賞を日本に創設した。2002年～2013年まで日本ファンタジーノベル大賞選考委員。女性SF評論集『女性状無意識』で1994年度第15回日本SF大賞受賞。巽孝之との共訳書ダナ・ハラウェイ他『サイボーグ・フェミニズム』（トレヴィル、1991年）で第二回日本翻訳大賞思想部門受賞。

伊藤 氏貴 文学部准教授 文藝評論家

1968年生まれ。千葉県出身。専門は美学・藝術思潮。主に近代日本文学における「私」の表象について。学部の卒業論文は三島由紀夫と寺山修司の演劇について、修士論文はいけばなについて、博士論文は文学における告白性について。『他者の在処—芥川の言語論』で第45回群像新人文賞（評論部門）受賞。江古田文学賞、富士正晴記念高校生文芸誌甲子園などの最終選考委員、「週刊金曜日」書評委員を務め、「文学界」新人小説月評、「三田文学」新同人雑誌評、「週刊読書人」文芸時評、「読売新聞」ベストセラー怪談など連載、単書に『告白の文学』、『奇跡の教室』など、共著に『名作は隠れている』、『私小説ハンドブック』、『読解レヴィ＝ストロース』、『かぼちゃの下で—ウガンダ、戦争を生きる子どもたち』など。「季刊文科」編集委員。高校生直木賞実行委員会代表。

飯田 久彦 エイベックス・ミュージック・クリエイティブ株式会社シニア・アドバイザー プロデューサー

1941年生まれ。東京都出身。日本大学高等学校卒業後、芝浦工業大学工学部電子工学科中退。ビクターエンタテインメント専務取締役、テイチクエンタテインメント社長、会長就任を経て、現在、エイベックス・ミュージック・クリエイティブ株式会社シニア・アドバイザー。歌手時代の愛称はチャコ。「ルイジアナ・ママ」が大ヒットし、NHK紅白歌合戦に出場。その後、日本ビクター（現ビクターエンタテインメント）に入社し、ディレクターとして松崎しげる、桜田淳子、岩崎宏美、ピンク・レディーらを担当。阿久悠作詞、都倉俊一作曲、ピンク・レディー歌唱によるレコード大賞受賞曲「UFO」の担当ディレクター。小泉今日子、SMA Pらのプロデューサーとしても活動。サザンオールスターズの代表曲「チャコの海岸物語」の“チャコ”とは、同氏のニックネームを桑田佳祐が歌詞にしたものである。